

たいにいい・ぼっくすつうしん



Vol.106

令和6年
1月15日

同じ想いでタスキを繋げて。

元号が変わったのは少し前のことと記憶していますが、もうすでに6回目の年を超えたことで、時代から取り残されていく世代になったのではないかと焦りを感じます。平成生まれが社会人として共に働くことになったことに感嘆がありましたが、令和生まれと共に福祉を考える未来もすぐに訪れるでしょう。昭和生まれの知っている福祉は、歴史で学んだ産物になってくれればと願います。

先日の茶話会で、「精神の安定を図るために薬を内服すべきかどうか」というお話がありました。薬の内服に関しては、始める時にも悩み、中断する時にも悩むことが大抵です。精神の安定を図る薬は効果ははっきりしない場合が多く、種類や量の調整が必要であり、副作用も心配されます。私たち福祉職は医師ではないため、介入できる範囲を超えている面もあり、また、かかりつけ医によっても意見が分かれることがあります。

支援者としての助言としては、内服を始める判断において、「本人が困っているか」「継続した支援が困難であるか」の二つの視点で考えるようにしようとお伝えしています。そして、後者の「継続した支援が困難であるか」は、家庭で困難さを感じていなければ、学校や通所先で内服を勧めることはしてはいけないと考えています。大体のことは環境要因で、内服することなく改善できるはずですが、一方で、将来、ライフステージの移行時でグループホームや施設に入所すると、親の判断ではなく、その決定の局面は生活支援員へと移り変わります。もちろん、保護者とご本人の意向は尊重されなければなりません。毎日、本人と関わる生活支援員が、内服を必要だと主張すれば、心情的に拒否することが難しいことでしょう。

箱根駅伝は、一人の力で個々に完走するマラソンではなく、複数人の想いが交錯するタスキを継ぐことで成り立っています。福祉も同様に、今の支援の成り行きなどの想いをのせて、次の世代にタスキを継いで未来を託していかなければなりません。子が親より先の未来を生きるは自然のことですから。

たいにいい
のようす

写真掲載欄のため、内容を削除しております。

2月の予定

節分
バレンタインデー

2月 休業日

3日 4日
10日 11日 12日
17日 18日
23日 24日 25日

